

特集 めざせ！褥瘡発生ゼロ

車椅子での褥瘡予防の問題点とその対応策

日高正巳¹⁾，永吉恭子²⁾

1) 兵庫医療大学 リハビリテーション学部 教授

2) 医療法人 静寿会 渡辺病院 リハビリテーション部 部長，作業療法士

Point

- ▶ 車椅子・車椅子クッションの適切な選択が大切である
- ▶ シートのたわみ対応などを含めて，座面を適切につくる
- ▶ 圧とずれへの対応をおこない，その延長線上の生活を考える

はじめに

車椅子上での褥瘡発生の多くは，車椅子ならびに車椅子用クッションの選択，そして，車椅子上での座位姿勢の作り方や時間の管理などに起因します。座位姿勢を整えることがシーティングの基本であり，車椅子上で褥瘡予防をおこなうには，

適切なシーティングが実施できることが大切です。

本章では，シーティングの基本として，車椅子の種類ならび構造上のポイントについて解説し，その後，シーティングのポイントについて解説します。

車椅子・車椅子用クッションの種類

車椅子

車椅子はその利用目的に応じて，多種多様なものが開発されています。スポーツ用車椅子は，各競技の特性に応じた構造をしており，本論の域を超える

ため割愛します。日常生活で用いる車椅子において，標準型車椅子のほか，バックサポートの角度調整がおこなえるリクライニング機構（図1），座面ならびにバックサポートの角度を一体的に調整可能なティルト機構（図2）を単独あるいは併せ持つ車椅子が



図1 リクライニング機構



図2 ティルト機構



図3 アンカーサポート

坐骨部の前方に滑らかな段ができるようにすることで，それ以上，前方に坐骨結節が滑らないようにサポートする機構

あります¹⁾。また，モジュール機能として座幅や前座高，さらには，シートやバックサポートの張り具合が調整可能なものもあります。車椅子は1人1人の状態に応じて，適切に調節して使用することが大切であり，未調整のまま使用した場合には，褥瘡発生につながるリスクが高まることを理解しておきたいものです。

車椅子を調整するうえで重要になるポイントは，アンカーサポート（図3）とランバーサポートです。アンカーサポートは，骨盤の後傾による前方への滑りを防止する役割を有し，適切に提供されていない車椅子では，骨盤が後傾し，坐骨結節が前方へ滑った座位

姿勢をとりやすくなります。座位姿勢では，骨盤は後傾せず，坐骨結節で体重を支持することが理想ですが，骨盤が後傾すれば，尾骨や仙骨に体重がかかることとなります。車椅子座位をとり，尾骨部や仙骨部に褥瘡が発生する場合は，骨盤を中立位に起こした座位姿勢ではなく，後傾した座位姿勢となっていることがあります。また，骨盤の後傾を後方からサポートする役割を果たすのがランバーサポートです。

車椅子用クッション

車椅子上での生活時間が長くなった場合には，座